

令和5年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画/生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和6年1月30日

協議会名: 秦野市地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
株式会社愛鶴	<p>上地区乗合自動車 【湯の沢線】 ● 渋沢駅北口～湯の沢終点(4.8km) ・平日: 渋沢駅発5便、湯の沢終点発11便</p> <p>上地区乗合自動車 【みくるべ線】 ● 渋沢駅北口～渋沢駅北口(循環・11.6km) ・平日: 8便 ● みくるべ榎戸～渋沢駅北口(6.7km) ・平日: 1便</p> <p>上地区乗合自動車 【柳川・八沢線】 ● 渋沢駅北口～八沢沢の下(6.1km) ・平日: 渋沢駅発3便、清戸発4便</p>	<p>前回の事業評価結果において、「地域」と「事業者」と「行政」の3者で役割分担を行い、地域(住民・利用者)が主体的に関与する仕組を構築するよう助言があった。 上地区乗合自動車は上記3者で構成された協議会(上地区公共交通協議会)によって運営されており、利便性の向上に向けた新ルート検討等の協議を活発に実施した。</p>	<p>A 上地区公共交通協議会において、利用者数増加を目的とした新ルートの運行について、協議を重ねたことで、令和5年10月からの新ルート運行が実現された。 また、車体への広告収入を継続するなど、運賃収入以外の収入源確保に努めた。 さらに、小学生が社会体験や自然体験等に利用しやすいよう、学校長期休業期間における小児運賃を半額の50円とすることも継続した。 これらのことから、秦野市地域内フィーダー系統確保維持計画に基づき、利用者の交通手段を確保維持することができたため、事業は適切に実施された。</p>	<p>C 上地区乗合自動車を持続可能なものとするため、上地区公共交通協議会において、継続要件: 2.40人/便以上(人件費を運賃収入で賄う)、継続目標: 3.72人/便以上(廃止前の路線バスの平均利用者数)を定めている。 令和5年度分(令和4年10月～令和5年9月)の運行実績は2.37人/便であり、継続要件及び継続目標ともに達成ができなかったが、前年度より0.08人/便増加し回復傾向である。</p>	<p>継続目標の達成に向け、上地区公共交通協議会を中心に下記の施策を実施する。</p> <p>○新ルートでの運行 令和5年10月からは、利便性が向上された新ルート(【みくるべ線】と【柳川・八沢線】を統合した循環線)での運行を実施し、利用者数の増加を図る。 ○利用促進策 ・学校長期休業期間における小児運賃については、引き続き、半額の50円とし、小学生の利用促進を図る。 ・スタンプラリー等、上地区乗合自動車へ乗車するきっかけとなる企画を実施する。 ○持続可能な運行の基盤づくりに向けた取組 ・収支率向上のため、車体への広告料収入を継続する。 ・より効果的かつ効率的な運行方法等について検討していく。</p>
地方運輸局等における二次評価結果(関東運輸局)	<p>住民・利用者を交えて利便性の向上に向けた新ルート検討等の協議などの取組は評価できるが、継続要件の目標は未達成となった。運行ルートの見直しをきっかけに、引き続き利便性向上や利用促進の取組を行うことを期待する。第三者評価委員会での有識者からの助言(下記)を、今後の検討の参考としていただきたい。 ・定量的な目標を示し、関係者と情報を共有しながら進めていただきたい。</p>				

令和5年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画/生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和5年12月8日

協議会名: 相模原市地域交通活性化協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
YM交通(株)	吉野・与瀬地区乗合タクシー「ふれあい号」 営業区域: 吉野・与瀬地区 運行日: 月曜～金曜 運行時間帯: 9時台～16時台 運賃: 大人300円※割引あり	引き続きポケット時刻表の配布。また利用促進協議会を開催し、利用状況の実態説明と地域の需要把握を行い、利用促進活動の方向性の検討を行った。	A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	B 事業が計画に位置付けられた目標を達成できていない点があった。しかし、運行地域の移動制約者等の日常生活に必要な最低限の移動手段を確保できた。 【実績/目標】 ・稼働率 54.5%／63%、 ・1便あたり利用者数 1.9人／1.8人 ・年間利用者数 2,034人／2,232人 【分析】 特定の便に利用者が集中しており1便あたりの利用者数が目標値を上回っている。	引き続き新規利用者の獲得のため、乗合タクシーのPRや利用方法の周知等に取り組むとともに利用促進協議会とともに利用促進を行う。
富士急バス(株)	名倉循環線 系統: 藤野駅～名倉～藤野駅(8.9km、循環) 運行回数: 平日7回/日、土曜4回/日 運賃: 210～320円	地域(住民・利用者)が主体的に関与する仕組みを構築すべきとの評価結果を受け、利用促進協議会の発足の準備を開始した。	A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	B 事業が計画に位置付けられた目標を達成できていない点があった。しかし、運行地域の移動制約者等の日常生活に必要な最低限の移動手段を確保できた。 【目標】年間利用者数27,200人 【実績】年間利用者数24,686人 【分析】利用者数は回復傾向にあるが、その多くは通学需要が占めており、地域住民による利用を促進する必要がある。	沿線住民により構成する地域協議体を立ち上げ、当該路線の利用状況を共有した上で利用促進策による新規利用者の獲得に取り組む。
神奈川中央交通西(株)	野05 系統: 藤野駅～馬本・大鐘～奥牧野(7.7km) 運行回数: 平日2.5回/日、土休2回/日 運賃: 210～350円	新規認定のため該当なし	A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	B 事業が計画に位置付けられた目標を達成できていない点があった。しかし、運行地域の移動制約者等の日常生活に必要な最低限の移動手段を確保できた。 【目標】年間利用者数8,400人 【実績】年間利用者数7,695人 【分析】感染症の影響が長引き目標達成に至らなかったものの、通勤需要の回復により目標達成の見込がある。	地域住民が当事者意識を持ち、地域で公共交通を維持していくという意識を持っていただけけるよう、地域組織を立ち上げ、積極的な利用促進策の実施を促す仕組みを構築する。また、周辺環境や行動変容の実情を捉え、よりニーズに合った運行内容となるよう検討を行っていく。
	野08 系統: 藤野駅～上河原～和田(5.6km) 運行回数: 平日7.5回/日、土休8回/日 運賃: 210～300円		A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	B 事業が計画に位置付けられた目標を達成できていない点があった。しかし、運行地域の移動制約者等の日常生活に必要な最低限の移動手段を確保できた。 【目標】年間利用者数41,000人 【実績】年間利用者数30,071人 【分析】利用者数の多くを観光客が占めていたために回復が遅く、地域住民による利用を促進する必要がある。	
	野11 系統: 藤野駅～山口原～やまなみ温泉(5.1km) 運行回数: 平日5.5回/日、土休7.5回/日 運賃: 210～270円		A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	B 事業が計画に位置付けられた目標を達成できていない点があった。しかし、運行地域の移動制約者等の日常生活に必要な最低限の移動手段を確保できた。 【目標】年間利用者数27,700人 【実績】年間利用者数17,186人 【分析】コロナ禍に加え、終点近くにある温泉施設が改装のため7月まで休館していたことにより、利用者数が回復しなかったことが原因と考えられる。	
	野12 系統: 藤野駅～やまなみ温泉～奥牧野(10.5km) 運行回数: 平日7.5回/日、土休6回/日 運賃: 210～350円		A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	B 事業が計画に位置付けられた目標を達成できていない点があった。しかし、運行地域の移動制約者等の日常生活に必要な最低限の移動手段を確保できた。 【目標】年間利用者数31,100人 【実績】年間利用者数31,082人 【分析】感染症の影響が長引き目標達成に至らなかったものの、通勤需要の回復により目標達成の見込がある。	

地方運輸局等における二次評価結果(関東運輸局)	利用状況の実態説明や地域の需要把握などの取組は評価できるが、年間利用者数や稼働率の目標は未達成となった。検討を踏まえて、利便性向上や利用促進の取組を行うことを期待する。 第三者評価委員会での有識者からの助言(下記)を、今後の検討の参考としていただきたい。 ・住民を巻き込み、自分事化するような仕組みを検討していただきたい。 ・定量的な目標を示し、関係者と情報を共有しながら進めていただきたい。
-------------------------	---

令和5年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画/生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和6年1月17日

協議会名: 中井町地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
神奈中タクシー株式会社	<p>運行系統名: 中井町オンデマンドバス (通称:中井ふれあいバス)</p> <p>運行区域: 中井町内全域(乗降ポイント 119箇所)及び一部町外(乗降 ポイント1箇所)を対象としたデ マンド型交通システム(区域運 行型)</p> <p>運行日:月曜日～金曜日</p> <p>運行時間:7時～19時</p> <p>運賃: 町内 大人200円、小人100円 町外 大人400円、小人200円</p>	<p>アフターコロナ、ウィズコロナを 見据え、利用促進に関するイ ベント等を実施できるよう、行 政からもバックアップすべきと いう評価結果を受け、利用者 等との座談会を開催した。町内 7か所に出向き、利用促進につ なげるため、事業の案内や意 見交換を行った。また、令和4 年10月から開始した65歳以上 の方及び妊産婦について希望 の降車ポイントで降車ができる サービスは、利用者から評価を 得ており、引き続き対象者の検 討を行い継続していく。</p>	<p>A 事業が計画に位置づけられ たとおり、適切に実施され た。</p>	<p>B 事業が計画に位置付けられ れた目標を達成できていな い点があった。</p> <p>目標:利用者数 42人/日 実績:利用者数 30人/日 分析:利用者の生活スタイル の変化や、小中学生の 減少に伴って、バスの利用 機会も減少したことによると 考える。</p> <p>しかし、交通空白地域の在 住者、運転免許を持たない 交通弱者など本来救うべき 移動手段の無い人等の利用 は一定の件数で推移して おり、目的を果たしているも のと考える。</p> <p>また、登録者数も微増で推 移しており、路線バスを補 完する移動手段としては一 定程度の利用が維持され ている。</p>	<p>現行の運行体制で、交通空白 地域の在住者や交通弱者等が 利用しやすい環境が一定程度 維持されているが、利用登録し たものの利用がない方の利用 促進や、新規利用者の獲得が 課題。</p> <p>座談会での周知や情報誌への 記事の掲載により、新規で利 用登録される方が増加したの で、今後も積極的な広報に努 める。</p> <p>引き続き、路線バスを補完する フィーダー的役割を担っている オンデマンドバスの安定的な運 行を図るとともに、障害や年齢 などに関係なく、誰もが安心・ 快適に移動できるしくみを検討 し、町の交通網全体を機能的 なものにしていくことを目指す。</p>
地方運輸局等における 二次評価結果 (関東運輸局)	<p>利用者等との座談会の開催や65歳以上の方及び妊産婦について希望の降車ポイントで降車ができるサービスなどの取組は評価できるが、利用者数の目標は未 達成となった。引き続き利便性向上や利用促進の取組を行うことを期待する。 第三者評価委員会での有識者からの助言(下記)を、今後の検討の参考としていただきたい。 ・住民を巻き込み、自分事化するような仕組みを検討していただきたい。 ・定量的な目標を示し、関係者と情報を共有しながら進めていただきたい。</p>				

令和5年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画/生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和6年1月29日

協議会名: 二宮町地域公共交通活性化協議会

評価対象事業: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
<p>神奈川中央交通西株式会社</p>	<p>地域内交通を確保・維持する取り組みの一つとして、交通空白地域を通り、地域間幹線系統や鉄道駅を接続させる、定時定路線・町内循環型のコミュニティバス「にの♥バス」を平成29年10月から運行している。 令和4年10月からは、「にの♥バス」利用者の利便性向上のため、町北部の大規模小売店舗を経由するようルートを延伸するとともに、ダイヤの再編を行った。また、「にの♥バス」利用者数拡大のため、③に記載のとおり利用促進を行った。</p>	<p>「地域(住民・利用者)が主体的に関与する仕組みを構築していただきたい。」との評価を受け、従来から引き続き、「地域の通いの場」において「にの♥バス」を使った具体的なお試しコースの提案・回数券の配布を行い、地域住民同士連れ立っての外出に「にの♥バス」を利用してもらえるよう促した。また、「利用促進に関するイベント等を再開(実施)できるよう、行政からもバックアップしていただきたい。」との評価を受け、「湘南にのみやふるさとまつり」での「にの♥バス」車両展示と宣伝チラシの配布に向けて準備を行った。</p>	<p>事業が計画に位置づけられたとおりに実施されていない点があった</p> <p>B</p> <p>子どもを対象としたお試し乗車として「にの♥バス」を保育園の遠足に利用することを検討していたが、保育園が遠足に利用しやすい午前の時間帯に「にの♥バス」が混雑するようになってきているため、実施を断念した。</p>	<p>事業が計画に位置付けられた目標を達成できていない点があった。</p> <p>【乗車人数】 目標:100人/日 実績:90.4人/日 分析:前年度比で約12%増加しているが、目標値には届いていない。コロナ前と比較すると中学生以下の乗車人数が大幅に減少していることが原因と思われる。</p> <p>B</p> <p>【手形及び回数券購入】 目標:320人 実績:328人 分析:前年度比で18%増加し、目標を達成した。乗車人数自体が増加傾向にあり、手形・回数券の利用者もそれに比例して増加したこと、町広報での「にの♥バス」特集記事やバス車内でのチラシ掲示により制度の周知が進んだことが原因と考えられる。</p>	<p>・手形や回数券の制度の周知を含め、「地域の通いの場」における啓発を継続する。</p> <p>・利用者数が低迷している子ども向けの啓発としては、従来検討していた保育園を対象としたお試し乗車は断念し、沿線の学校に登下校で「にの♥バス」の利用を推奨するプリントを引き続き配布するとともに、夏休み期間の小人料金の減免等、新しい利用促進策も検討する。</p> <p>・「にの♥バス」利用者向けのアンケートを行った結果、利用者の大半を高齢者が占めることが判明したため、妊産婦等若い世代への周知についても検討する。</p>

地方運輸局等における二次評価結果(関東運輸局)

お試しコースの提案や広報紙での周知などの取組により手形及び回数券購入人数の目標が達成できたことは評価できるが、乗車人数の目標は未達成となった。第三者評価委員会での有識者からの助言(下記)を、今後の検討の参考としていただきたい。

- ・住民を巻き込み、自分事化するような仕組みを検討していただきたい。
- ・定量的な目標を示し、関係者と情報を共有しながら進めていただきたい。

令和5年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画/生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和 6年 1月 31日

協議会名: 大磯町地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
伊豆箱根交通株式会社	<p>系統名:東ルート 西小磯東地区の一部地域(乗降場所30箇所)と町内4箇所(役場、郵便局、図書館、駅)間を対象としたデマンド型タクシー</p> <p>系統名:西ルート 西小磯地区の一部地域(乗降場所30箇所)と町内2箇所(病院、スーパー)間を対象としたデマンド型タクシー</p>	<p>前回の事業評価結果の顧慮すべき事項として、 ○乗車人数に応じた運賃割引制度などの取組は評価できるが、本事業の1便当たり輸送人員、稼働率の目標値は未達成となった。この結果を踏まえて、引き続き今後の施策の検討を進めていただくとともに、町全体の目指すべき交通体系の実現に向けて、マスタープランである地域公共交通計画を策定され取り組まれることを期待する。とあり、上記配慮事項に対し、令和5年度に地域公共交通計画を策定する。</p>	<p>A 大磯町地域公共交通総合連携計画に基づき、公共交通空白地域である赤坂台地区を含む西小磯の一部地域において、地域の住民と協働で、当該地域に最も適している乗り物は何か検討を行った。事業実施にあたり、事前に当該地域の住民を対象にアンケート調査を実施し、住民の利用頻度や乗降場所の特定を行った。 以上のことから地域の特性と住民の声に即した乗り物の確保を行うことができ適切な事業を実施した。</p>	<p>B 大磯町地域公共交通総合連携計画の「稼働した便の1便当たりの輸送人数が1.5人以上」の目標に対し、令和5年は東ルート1.1人、西ルート1.0人であった。令和4年の事業評価では東ルート1.1人、西ルート1.1人であったので、昨年より西ルートで0.1人の減少だった。 また、もう一つの目標である「全運行本数に対する実運行本数の稼働率30%」に対して、令和5年は東ルート31%、西ルート8%であった。令和4年の事業評価では東ルート30%、西ルート10%であったので、東ルートの稼働率は増加したが、西ルートの稼働率は昨年より減少し、西ルートは目標を達成できなかった。</p>	<p>令和4年の事業評価の中に、○本事業の1便当たり輸送人員、稼働率の目標値は未達成となった。この結果を踏まえて、引き続き今後の施策の検討を進めていただくとともに、町全体の目指すべき交通体系の実現に向けて、マスタープランである地域公共交通計画を策定され取り組まれることを期待する。とあり、上記配慮事項に対し、令和5年度に地域公共交通計画を策定する。</p>

<p>地方運輸局等における二次評価結果(関東運輸局)</p>	<p>乗車人数に応じた運賃割引制度などの取組により、稼働率の目標を達成している点は評価できるが、輸送人数および西ルートの稼働率の目標は未達成となった。引き続き利便性向上や利用促進の取組を行うことを期待する。 第三者評価委員会での有識者からの助言(下記)を、今後の検討の参考としていただきたい。 ・住民を巻き込み、自分事化するような仕組みを検討していただきたい。 ・定量的な目標を示し、関係者と情報を共有しながら進めていただきたい。</p>
--------------------------------	---

令和5年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画/生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和 6年 1月 22日

協議会名: 湯河原町地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
湯河原タクシー(株)	<p>予約型乗合い交通「ゆたぼん号」 温泉場エリア</p> <p>予約型乗合い交通「ゆたぼん号」 オレンジラインエリア</p> <p>予約型乗合い交通「ゆたぼん号」 鍛冶屋エリア</p> <p>予約型乗合い交通「ゆたぼん号」 福浦エリア</p>	<p>リピーターの利用者が定着しているほか、町広報紙などでの周知や口コミでの広がりにより、昨年度同様に利用者は増加しており、乗合いでの利用も増えている。 今後の運行計画の見直しのために、予約型乗合い交通「ゆたぼん号」の住民説明会や利用率の低い鍛冶屋エリアの地域公共交通に関するアンケートを実施し、住民の声を聞くことが出来た。現状、多くの方が日常的に自動車やバイクを運転しているが、今後の自身の移動手段として関心があることが分かり、今後も新規の利用者が増加することが考えられるため、事業を継続するとともに引き続き周知を行っていく。</p>	<p>A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された</p>	<p>A 【目標数値】 乗車密度(※) 1.5人/便以上 ※乗車密度=利用者数/運行便数</p> <p>【結果】 乗車密度 2.02人/便(前年1.86人)</p> <p>【参考 各系統の乗車密度】 温泉場エリア 1.20人/便 オレンジラインエリア 2.35人/便 鍛冶屋エリア 1.14人/便 福浦エリア 1.19人/便</p>	<p>・住民からの要望を聴取した内容をもとに予約型乗合い交通「ゆたぼん号」の運行計画を見直し、自治会の回覧やチラシの配布等による周知を行い、更なる利用者増となるよう努める。</p>

<p>地方運輸局等における二次評価結果(関東運輸局)</p>	<p>広報誌での周知や住民説明会、アンケートの実施に取り組まれ、乗車密度の目標を達成されたことを評価する。 引き続き、利用促進に取り組んでいただきたい。 第三者評価委員会での有識者からの助言(下記)を、今後の検討の参考としていただきたい。 ・住民を巻き込み、自分事化するような仕組みを検討していただきたい。 ・定量的な目標を示し、関係者と情報を共有しながら進めていただきたい。</p>
--------------------------------	--

令和5年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画/生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和6年1月31日

協議会名: 大井町地域公共交通会議
 評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
富士急湘南バス株式会社	1.相和循環(往路③⑥便) 大井町役場～赤田～大井町役場 運行日:月・火・金・土(ただし土曜日は午前のみ) 運行回数:2回/日 運賃:200円 (町内在住の小・中学生は無料、令和5年5月より町内在住の75歳以上は無料)	町広報へ特集号の掲載、公共交通マップの配布、おでかけモデルプランの掲示による「おいゆめバス」の周知を実施し、ゆめバスの認知度の上昇を図ったため、利用者は昨年度より増加した。アフターコロナによる公共交通の利用促進を図るために運行事業者に町のイベントに参加いただいた。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	A 事業が計画に位置づけられた目標を達成できていない点があった。 【目標】 一般利用者数6,000人(500人/月)、小中学生利用者数4,000人(333人/月) 収支率…8.7%の確保 【実績】 一般利用者数5,306人(442人/月)達成率88.4%、小中学生利用者数6,043人(503人/月)達成率151% 利用者は小中学生のみ目標値を達成。一般は目標値より700人程度少なかった。利用者自体は一般・小中学生ともに昨年度より伸びているが、町内在住の小中学生に加え令和5年5月からは高齢者福祉施策として町内在住75歳以上の高齢者の運賃も無料対象としたことから、全体の収支率実績が4.5%と、目標値より4.2%の不足となった。	・利用者が少ない地域や時間帯を分析し、見直しを行う。 ・公共交通マップ・おでかけモデルプランを配布し、おいゆめバスの周知及び利用促進を図る。 ・一般利用者がゆめバスを利用する習慣がつかうように、広報でも利用のモデルを掲載し、利便性のアピールを行う。 ・アンケート調査等を行い町民ニーズの把握を行う。
	2.相和循環(復路⑤⑦便) (⑦便のみR5.4～R5.9) 大井町役場～赤田～大井町役場 運行日:月・火・金・土(ただし土曜日は午前のみ) 運行回数:2回/日 運賃:200円 (町内在住の小・中学生は無料、令和5年5月より町内在住の75歳以上は無料)				
	3.相和循環(復路⑦便) (R4.10～R5.3) 大井町役場～赤田～大井町役場 運行日:月・火・金・土(ただし土曜日は午前のみ) 運行回数:1回/日 運賃:200円 (町内在住の小・中学生は無料、令和5年5月より町内在住の75歳以上は無料)				
	4.西大井・金子循環(④便) 大井町役場～新宿～大井町役場 運行日:月・火・金・土(ただし土曜日は午前のみ) 運行回数:1回/日 運賃:200円 (町内在住の小・中学生は無料、令和5年5月より町内在住の75歳以上は無料)				
	5.登下校ルート(①⑧⑨便) 系統:いこいの村あしがら～篠窪～大井町役場 運行日:月・火・水・木・金 運行回数:3回/日 運賃:200円 (町内在住の小・中学生は無料、令和5年5月より町内在住の75歳以上は無料)	令和5年度新規事業			
6.登下校ルート(②便) 系統:いこいの村あしがら～柳～大井町役場 運行日:月・火・水・木・金 運行回数:1回/日 運賃:200円 (町内在住の小・中学生は無料、令和5年5月より町内在住の75歳以上は無料)					

地方運輸局等における二次評価結果(関東運輸局)
 利用実績の分析に加え、昨年行ったアンケート調査や地元町民からの意見をもとにしたバス停の増設などの取組による小中学生の利用者数の目標を達成した点は評価できるが、一般利用者数および収支率の目標は未達成となった。
 第三者評価委員会での有識者からの助言(下記)を、今後の検討の参考としていただきたい。
 ・住民を巻き込み、自分事化するような仕組みを検討していただきたい。
 ・定量的な目標を示し、関係者と情報を共有しながら進めていただきたい。

令和5年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和6年1月29日

協議会名: 南足柄市地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
箱根登山バス株式会社	系統名:箱根登山バス(関17) 関本～内山・矢倉沢～地蔵堂 (11.9Km) 平日及び土日祝日の路線定期 運行	令和5年度新規事業のため、 該当なし	A 事業が計画に位置付けら れたとおり、適切に実施さ れた。	B 事業が計画に位置付けら れた目標を達成できていな い点があった。 【目標】 (1)年間利用者数 40,000人以上 (2)地蔵堂地区住民のバス 利用割合 30.0% 【実績】 (1) 13,929人 (2) 33.3% 【分析】 地蔵堂地区のバス利用者 の割合は増加(27.8%→ 33.3%)したものの、年間利 用者数が伸びなかったの は、コロナ禍での利用控え の状況が回復できなかった ことによるものと考えられ る。	・路線の維持が課題であり、運 行事業者と協議の継続を図 る。

地方運輸局等における 二次評価結果 (関東運輸局)	関係自治会の住民を対象にした説明会の開催や周知用パンフレットを自治会内で回覧するなどの取組により、地蔵堂地区住民のバス利用割合が目標を達成された点は評価できるが、年間利用者数の目標は未達成となった。引き続き路線の維持に向けた利便性向上や利用促進の取組を行うことを期待する。 第三者評価委員会での有識者からの助言(下記)を、今後の検討の参考としていただきたい。 ・住民を巻き込み、自分事化するような仕組みを検討していただきたい。 ・定量的な目標を示し、関係者と情報を共有しながら進めていただきたい。
---------------------------------	---